

<https://www.youtube.com/watch?v=nZUygiJAKo0>

『神は誠実であり続ける』おはようございます。日曜の朝の第二礼拝へようこそ。日曜日には二つの礼拝があります。1つ目は聖書の預言についてです。毎週、聖書預言のアップデートを行っています。今ライブ配信している第二礼拝では、通常の説教を行います。聖書を一節ずつ学びます。今は、テモテへの手紙第二を学んでいます。ご一緒下さい。今日の聖書箇所は、第2章、8節から13節です。その箇所をお開きの間に... いくつかお知らせします。まず第一に、もしまだであれば、新しいウェブサイト JDFarag.org をご覧になって下さい。そして、第二は祈りのお願いです。祈りが必要です。奇跡が必要なのです。私たちの建物に設置されているアンテナの移設について、オンライン教会の皆さんの協力を得たいと思います。当方では、正当に注意義務を行なってきました。法的には、できる限りの事をしました。隅々まで手ばかりがないようにしました。今、私たちはただそれを主に委ねる必要があります。それは、この時点でアンテナが外れるには、奇跡が必要だからです。私たちは祈りのお願いをしていますが、非常に具体的に祈りたいと思います。ちなみにこれは、あなた自身の祈りの生活の中でも、ぜひともお勧めしたいことです。祈るときは、具体的に祈りましょう。一般的な祈りではなく、具体的な祈りをしてください。私たちの祈りは非常に具体的で、それは、彼らがアンテナ用に新しい場所を見つけて、できるだけ早くそれらを取り外してくれることです私は信仰によって、最終的には、私の特権としてこの説教壇に立ち、神がいかにそうされたか、神のやり方を皆さんにお知らせするのを楽しみにしています。神はいつも、それをして下さいます。ご自分のやり方とタイミングで、ご自分の栄光のために。前提条件が1つだけあって、私は自分の話をしますが、私たちが神の邪魔をしなければ、神はいつもご自身のやり方で行って下さいます。私の言っている事が分かりますか？皆さんには問題ではありませんね。繰り返しますが、私は自分の話をしているのです。神がこう言われるようなものです。「わたしはやりたいのだが、あなたが邪魔している。」「だから邪魔をしないでくれ。わたしのやり方でやるから。」主よ、分かりました。だから、これは主の方法で、主のタイミングで、主の栄光のために主にやっていただかねばならないのですね。私たちはただ皆さんに、この件について具体的に祈るようにお願いしたいのです。御言葉に入りましょう。今日の学びは楽しみです。テモテへの手紙第二、2章です。先週は7節で終わりましたので、8節から始め、13節までいきます。出来ればご起立下さい。無理な方はそのまま結構です。私が読みますので、目で追って下さい。使徒パウロは、聖霊によって、息子のようにとても愛しているテモテへ書いています。彼は8節で、次の3つの言葉を最初にいきなり言います。「イエス・キリストのことを心に留めていなさい。」ここだけで終えてもいいかもしれません。そうはしませんが...

#### テモテへの手紙第二2章

8 イエス・キリストのことを心に留めていなさい。私が伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫として生まれ、死者の中からよみがえった方です。

9 この福音のために私は苦しみを受け、犯罪者のようにつながれています。しかし、神のことばはつながれていません。

10 ですから私はすべてのことを、選ばれた人たちのために耐え忍びます。彼らもまた、キリスト・イエスにある救いを、永遠の栄光とともに受けるようになるためです。

11 次のことばは真実です。『私たちが、キリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きるようになる。

12 耐え忍んでいるなら、キリストとともに王となる。キリストを否むなら、キリストもまた、私たちが否まれる。

13 私たちが真実でなくても、キリストは常に真実である。ご自分を否むことができないからである。』

ご一緒に祈りましょう。愛する天の父よ、私たちの前には 強力な御言葉があります。聖霊によって見る目を与えられない限り、今日あなたが私たちのために用意されているもの、あなたが私たちに示そうとされているものを 私たちは見ることはできません。あなたが聖霊のあのかすかな細い声で 語って下さらない限り、今日あなたが私たちの生活に 語りかけたいと願っていることが何であるかを 私たちは聞くことができません。主よ、私たちはあなたの御前に、聖霊があなたの教会である 私たちに語られることを見る目と聞く耳と、受け取る心を持ちたいと思います。私たちは祈ります。イエス様の御名によって。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。今日は、人生の中で、困難や苦難が、神の善良さ神の誠実さと矛盾しているように 思える時のことについて、お話ししたいと思います。皆さんも、試練があまりにも困難で、状況があまりにも複雑で危機的なために、すべての事が神の善良さ、神の誠実さと矛盾しているように 思えたことはありませんか？ そうすると、何が起こるかという、いつも、神の善良さへの疑念が湧いてきます。特に、試練が、あまりにも強く巨大であるとき、あなたはその状況を見て、こう言うのです。「私にはどうしても分からない。」神が、これをどう解決してくださるのか、どうしても分からない。神がどうやって、ここから良いものをもたらすのか、私には分からない。これは、本当に悪い状況だ。私たちは、自分の境遇の難しさというレンズを通して、神の善良さを見始めます。そして、敵はすぐそこにいますよね？ 実際、私はこれこそが敵の意図するところだと思います。敵はあなたの心を読むことはできませんが、あなたの心に思考を植え付けることはできます。それらにどう対応するかは、私たちの問題となります。私たちは、その考えを捕らえて、キリストに服従させるのか？ それとも、私たちはそれにただ入って来させるか？ それを発芽させて、そのために、いつもの苦い実を結ばせるのか。ここで想像してみると、こんな感じです。こんな感じです。あなたはこの試練の中にいて、本当に苦しく辛い。あなたはこう思い始めます。「主よ、あなたがどうやってなさるつもりなのか、私にはわかりません。」すると、敵がこんな思いを持ってきます。「これは本当に良くないねえ？」—そう。全くひどい。「どうやってこれが益となるんだろうね？」—私にはわからない、わからない。「もし仮に、（空欄）……」そして皆さんがその空欄を埋める。「（空欄）の場合は、どうだろう？」敵は、その「もし仮に」の道の上を、あなたが許す限り、出来るだけ遠くにあなたを連れて行きます。それは思考の中の戦いです。思考の中の戦いです。それは、目新しいことではありません。なぜなら、エデンの園で、サタンがエバに神の善良さを 疑わせたのと同じことだから。神は信頼できるお方か？ 神はそう言ったのか？ 神は本当に言ったのか？ 何が起こるか と言えば、 私たちは恐怖と疑念の餌食になります。特に恐怖の。私たちは恐ろしくなります。恐怖で満たされて。一旦サタンが私たちに恐れを抱かせれば、私たちはもう敵の思うつぼです。ゲーム終了です。私たちはサタンの思い通りになっています。しかし神は、「常に」（キーワード）誠実（真実）でいてくださいます。神は誠実です。神は、常に誠実でいてくださいます。今日の御言葉では、使徒パ

ウロは聖霊によって、私たちに人生を変える三つの真理を教えてください。それが使い古された、陳腐で、型にはまった空っぽなものに聞こえることは分かっていますが、それらは人生を変える真理です。私がそれらを人生を変える真理と呼んでいるのは、パウロ自身が言いようのない困難の中にいるからです。まるで、彼はそれを分け与える前に自分のものとして所有しているかのようです。自分が持っていないものは、与えることが出来ません。パウロはこれを所有していました。そして彼はテモテに手紙を書いていて... 大事なものはこれ、これを心に留めておいて下さい。非常に重要なことです。これは、今日の御言葉の理解に関係しています。パウロは、自分がとても愛しているテモテが、いつまでも自分を頼ってられない事を知っていました。パウロの余命は限られていました。パウロもテモテもそれを知っていて、パウロは自分がいなくなった時のために、テモテを備えるべく、聖霊によって、できる限りの事をしているのです。彼はテモテには厳しい日々が待っていることを知っており、テモテを励まし、彼のために用意されてるもののために彼を備えようとしています。パウロはそれが容易なものにはならないことを知っているのです、彼はここで私が人生を変える三つの真実だと思うものをテモテに提供しています。皆さんはもっと見つけるかもしれませんが、私は三つ見つけました。私たちがあまりにも恐怖と疑いでいっぱいになって、神の誠実さに疑問を抱く時に、人生を変える真実。最初のものは8~9節にあります。単純に、「心に留めること」。私は、8節の最初の三つの言葉がどうしても忘れられません。私はこの三つの言葉だけで一回分の説教ができますし、あなたがたは、そのことをご存知です。「イエス・キリストのことを心に留めていなさい」当たり前のように思えるかもしれませんが、パウロは何を言っているのでしょうか。なぜパウロはそんなことを書いたのでしょうか？なぜ聖霊はパウロにこの三つの言葉を書かせたのでしょうか。「イエス・キリストのことを心に留めていなさい。」(Remember Jesus Christ)それは、あなたが困難な状況、危機的な状況にある時に最初に起こることは、忘れてしまうことだからです。それはまさに敵が望んでいる事です。私自身の話をしますが、時々、私を現実に戻してくれる二つの言葉があります。この二つの言葉が何か、分かりますか？“主 (The LORD)”。オーそうだ、私は何を考えていたんだ？ 主 私はあまりにもはまり込んで、神経が高ぶって、ストレスで参っています。ちょっと待って、私は救われてる。「主」「イエスを覚えてますか？」まるで主が、「オーイ、わたしを覚えているか？」と叫んでいるようです。「何をしているんだ？オーイ、覚えているかい？」はい、そうでした。「主」「イエス・キリストのことを心に留めていなさい」この節でパウロはテモテに、「一番大切なことを一番大切にする」という、重要なことを思い出させています。一番大切な事が必ずしも一番大切にされていないのが真実ではありませんか？ 私たちはそれを思い出す必要があります。私たちは認めたくないかもしれませんが、私たちにテモテに似たところがあると思います。私たちは忘れがちです。何が本質かを忘れてしまいます。一番大事なことは、イエス・キリストと、イエス・キリストにある救いです。それが最前線になればなりません。それがすべてを変えるからです。「イエス・キリストのことを心に留めていなさい」皆さんが読んでいて気付いたかどうかは分かりませんが、まるでパウロには、自分に思い出させる (remind) 必要があったような印象を受けます。私は理由があつてそのように言っています。Re-mind (再び気にかける) Remind (思い出させる/気づかせる) これは言葉の遊びではありません。そんな顔で見ないで下さい。良いですか？ 私たちは再訪 (revisit) します。私たちは再始動 (restart) します。私たちは再起動 (reboot) します。さて、時に私たちは、再び気に掛けることも必要です。思い出させる。「志の堅固な者を、あなたはまったく平安の内に守られます」(イザヤ 26:3) というイ

ザヤの言葉を私は考えます。私たちは、私たちの心が主に留まる（志が堅固である） 必要があることを、自分に思い出させる必要があります。「覚えてるかい？」 -ああ、そうだった。私は最後の晩餐のことを思います。私たちは木曜日の夜にそれを祝ったばかりです。私は聖餐が大好きです。最後の晩餐の、一番大事な点は何だったか分かりますか。それは、一語で表されます。その言葉は「覚える」です。イエスは彼らに覚えていてほしかったのです。彼らが覚えておくだけのために、なぜイエスはそれをすべて行ったのでしょうか？ なぜなら、イエスは何が彼らにも 待ち受けているかを、知っていたからです。そして、戦いのさ中、人生の嵐の中で、私たちは皆、忘れがちになるからです。主が主導権を握っておられます。主は私に多くをつぎ込んで来られました。主は決して私から離れたたり、私を見捨てたりされません。私達が常に思い出す必要のあるものの リストにあるものを全部見ていきたいですか？ 特に年を取ると、たくさんの事を 思い出させてもらう必要があります。私の名前は何だっけ?... それくらい酷い時があるんです。記憶が無くなって、記憶が・・・これについて考えてみてください。パウロはここで、「私は犯罪者のように 繋がれている」と言っています。私は犯罪者ではない。これが福音であり、私の福音だ。彼はこれを、「私の福音」と呼んでいます。彼はそれを所有していました。そのために私は苦しんでいる。私は犯罪者のようにつながれている。彼はこれを書いている時、文字通りに、ローマの看守につながれていました。それはどうでしょう？ そして、まるで彼が自分自身に 思い出させる必要があったかのように、「ああ、そうだ！」私はつながれている。しかし、神のことはつながれていない。私はそれを思い出さねばならなかった。あなたは今日、自分自身にこれを 思い出させる必要があります。ここに座っている方、ネットで見ている方。皆さんは「ああ、そうだ」といった具合で… 「私は、何を考えていたんだろう？」 あなたは何も考えてなかったんです。それが問題なんです。イエスは、「これをするたびに、わたしを覚えて、行なってほしい」と言いました。もう少し具体的に調べてみましょう。イエス様、具体的に、私たちに 何を覚えておいて欲しいのですか？ わたしがどれだけあなたを愛しているかを、覚えていてほしいのです。わたしが、あなたのために死んだことを覚えていてほしいのです。他人のために命を捨てるほどの大きな愛はありません。わたしがそれほどあなたを愛しているなら、わたしがあなたのためにしない事が何かあるのでしょうか？ ああ、その通りだ。私は何を考えていたんだろう？ あなたは何も考えてなかったんです。私は思い出させてもらう必要があります。本当に。心に留める必要があります。当たり前のことを言うと思うかもしれませんが、あえて言うならば、これが一番の問題点だと思います。私は戦場にいるダビデのことを考えます。私はあの戦場にいるラクダにとまった ハエになれたら最高だと思います。結末は知ってますよね。これは実話に基づく物語ではありません、実話です。父は、息子達の様子を知るためダビデを戦場に送ります。3人の兄が戦場にいました。ところで長男？ ご存知ですよ。油注がれたイスラエルの王となるはずだった者。その名はエリアブでした。彼はダビデにとっても嫉妬していました。ダビデが戦場に来るや否や、エリアブは、「小僧、ここで何をしているのだ？」 「家に帰れ。そこがお前の居場所だ。なぜここにいるのだ？」 「父に頼まれたんだ。」エリアブはダビデに恨みがありました。三人の兄たちには…。というわけで、ここにダビデがいますね？ イスラエル人たちは四十日四十夜の間、この無割礼のペリシテ人が 自分たちの神の名を冒瀆するのを聞いていました。ダビデはたった一度それを聞いて、怒りました。深読みし過ぎかもしれませんが、私の考え方として、その場面を思い浮かべ、そこにいる自分を想像します。それで、私はそこにいます。

そこにダビデが来ます。「ああ、彼の事は聞いたことがある。」「エリアブさん、彼はあなたの弟さんですね。」「ああ、そうだよ。」「おお、すごい..」そして、あの無割礼のペリシテ人が登場します。ちなみに、ダビデは一度も彼をゴリアテとは呼んでません。ゴリアテとはチャンピオンという意味で、彼はチャンピオンではないからです。彼は冒読者です。ダビデは、決してゴリアテを名前で呼びませんでした。二人は話していて、エリアブは「家に帰れ」と言っています。突然、背景でこの声がします。「誰だ?」「彼は何と言った?」「ちょっと待って、今の聞きましたか?ちょっと...」

「ええっ?!」「ああ、そうなんだよ。彼は四十日四十夜ずっとあの調子なんだ。」「それでいいのか? だめだ! 私に戦わせろ。」この時ダビデはおそらく十代で、かなり若かったという説もあります。だから彼らは、「ダビデ、さあ、家に帰れよ。な?」「いやです。もう帰れない。帰るつもりだったけど、あれを聞いたからには... サウル王に話がある..」それで、彼らはダビデをサウル王のところに連れて行きます。サウルは...考えてみてください。彼らは恐怖で縮こまっています。恐怖で、固まってしまっているのです。ダビデはサウルのところに行って言います。「あなたもや深読みし過ぎなのは分かってますが、これは私がそこにある力を理解するためなんです。ダビデがサウル王に、こんな風に言っているようなものだからです。「あなたは、そんな侮辱を受けて平気なのですか? 私は我慢できません。」「四十日四十夜の間、彼はこうしているのに、あなたは何もしていないのですか?」「私がこれを片付けます。あいつの酷い大口を黙らせます。彼はもう二度と私の神の名を冒読することはありません。」サウル王は、「ダビデよ、ほらあ...ぼくちゃん...」(笑)彼はそんなことは言っていないでしょうが、ちょっと許してください。「彼はお前みたいな子供たちを、お前が生まれる前から昼飯にして来たんだぞ。」「構いませんよ。これはゴリアテ 対 私じゃなく、ゴリアテ 対 神なのですから。」サウル王はダビデを説得してやめさせようとしします。「ダメだ、ダメだ。それは許さない。」ダビデはどうするでしょう? 彼は思い出します。彼は何を思い出しますか? ダビデはサウル王に言います。「サウル王、このことを知って下さい。」「神は、熊と獅子を私の手にお渡しになりました。それらが羊を襲おうとしたので、私は素手で殺しました。」「この無割礼のペリシテ人など、無きに等しい者です。神にあれが出来たら、神に出来ないことは何もありません」神を心に留めることの力です。サウルはこんな感じです。「いいよ、どうぞ。」彼はダビデに自分の鎧を着せようとしします。「これは私のサイズじゃありません。」サイズが合いません。彼はそれを脱ぎます。ただ、石投げ紐と5つの石があればいい。具体的に、なぜ5つなのかはわかりません。ところで、5は恵みの数です。彼らは恵みによって救われたのです。ゴリアテには4人の兄弟がいたという説もありますが、私たちにはわかりません。ガテ(ガザ)には5つの都市があったので、その可能性もあります。私は予型論を考えます。予型論が大好きなので。予型論では、5は恵みの数です。そうやって私たちは救われ、恵みがすべてを変えるのです。先週もこの話をしました。ちょっとした余談ですが、これはあなたの祝福となり、励みになるかもしれません。それは、神の恵みの力と、恵みの数である5が、いかにすべてを変えるのかということです。それは神が、アブラムとサライの名前に挿入した、ヘブライ語アルファベットの第5番目の文字です。神は、彼らの名前を変え、彼らの性質を変えられました。神は、その5番目の文字を、彼らの名前の5文字目に入れました。アブラハム(Abraham)、サラ(Sarah)。五、「恵み」。もう一つだけいいですか? 駄目とは言えませんよね?(十戒の)第五戒は、唯一、恵みをともなう戒めです。他の戒めはみな、「汝、するべからず、さもなくば死ぬべし。」第5の戒、私の母と父は、これを私に暗記させました。欽定訳聖書で。

「あなたの父と母を敬え。 あなたの神、主が与えようとしている土地で、 あなたの日々が長く続くようにするためである。」

ちょっと待って。それは”恵み”でしょう。 ええ、それが第5の戒めです。5は恵みの数です。恵みはすべてを変えます。私たちは信仰によって、恵みによって救われます。恵み。 イスラエルは恵みによって救われました。 それは神の恵みでした。しかし、彼は思い出したのです。私は申し上げたいんですが、もし、今日ここにいる 皆さんで、苦悩していて、本当に困難な時期を 過ごしている人がいらっしやるなら、…私はそれを軽んじるつもりはありません。私はそれが辛いことを知っています。しかし、神は。とにかく時間をかけて、過去に神があなたを 助けて下さった時の事をすべて思い出すことは、とても良いことだと私は思います。神が、その試練という熊と、 困難という獅子をあなたの手に渡された時のことを。そして神は、神にしかできないやり方で それをなさった。そして神は、あなたが望んでも 自分の手柄にできないようなやり方でなさったのです。神は神だけにできるような方法でそれをされました。 あなたはそれを知っています。それは不可能な事でした。道はありませんでした。そして神はそれをしてくださいました。 それであなたは、「ほお〜！それが唯一の方法だった。」 「分かっているよ、言うておいたろう？」2つ目は、「耐え忍ぶこと」パウロがここ10節で言っていることは、いくつかの理由で非常に興味深いです。その中でも大きなものは、なぜ彼が耐えられるのか、 その理由を明らかにしていることです。私は、世界が私たちからハイジャックした言葉を使うのが嫌いです。アラブ人がハイジャックという言葉を使うべきではないことは分かっていますが。しかし…、「成功の秘訣」私は凄く嫌なんですが、世は私たちから何かを奪い、それを汚します。彼らはそれを冒瀆し、一般的なものにします。成功の秘訣 さあ、返してください。 なので私は今だけ、それを取り戻します。パウロの成功の秘訣は何でしたか？ どうして？パウロの秘訣は何だったのでしょうか？ 彼はどのようにして耐え忍ぶことが出来たのか？ ところで、彼が何を耐え忍んだか知っていますか？第一コリント、ついでに第二コリントも。お望みなら、すべての書簡も。ところで、使徒の働きの中にもあります。何度、難破したことか？ 何度、殴られたことか？ 石打(stoned)にされたのは？ ハイになる(stoned) ことではありませんよ。 それではありません。それは別の stoned です。すみません、やりすぎました。私が言っているのは、文字通り、死に至るまで、石を投げつけることです。そして、彼らはリストラの外で パウロを見殺しにしましたそれも彼の苦悩の履歴に加えられるでしょう。彼の秘訣は何だったのでしょうか？ 一体全体、彼はどのようにしてすべてに耐えることが出来たのでしょうか？それを、彼はここで私たちに教えてくれます。あなたは彼がこんな風に言うだろうと思うでしょう。「私が耐え忍ぶことができるのは、 イエス・キリストの福音のためだ。そうやって。」と。彼はそうは言いません。彼が何と言ったか気づきましたか？ 彼はこう言います。 私が耐え忍ぶことの出来る秘訣は、「神の民のため」。それは、彼が耐え忍んでいるのは、福音のためでないというわけではありません。彼は確かにそのために耐え忍んでいます。彼が耐え忍んでいるのはイエス・キリストのためではないというわけではありません。確かにそのために耐え忍んでいます。しかし、彼はさらに踏み込みます。それはただ福音のため、 ただイエスのためだけでなく、それは、他の人々が福音を聞いて、イエスのもとに来るためだと。それだけが、私の忍耐の燃料になっている。それが、私を頑張らせるのだと。うわ〜、それは愛です。皆さんが使徒パウロを どう見ているか分かりませんが、揺るぎない大胆不敵さがあったのは間違いありません。おそらく、彼の存在感は 威圧的だっただろうと想像します。パウロが部屋に入ってくると、 あなたは直立不動の姿勢をとります。

「ああ！あれは使徒パウロだ…！」「あれが誰だかわかるか?!」「使徒パウロだよ!」「まじか!?!」 — 「そうだよ!」そうですね？ パウロが話すと、人々は耳を傾けました。それは彼が獲得していたものです。そこには力があり、油注ぎがあり、権威があった。あなたはどのように彼を見ていますか？ 彼はそうでした。しかし、あなたは次のように彼を見るのでしょうか？ 彼は思いやりがあり、愛にあふれていると？ これが皆さんを がっかりさせないことを願いますが、しかし、パウロはたくさん泣きました。使徒の働き 20 章。3 年間、昼も夜も。彼はひどく泣きました。なぜなら 彼は、自分が去った後、羊のなりをした 狼が来て、群れを荒らし回ることを知っていたから。パウロは、彼らが群れの中から出てくることを知っていました。それは彼には辛すぎることでした。そして、彼は泣きました。私はこのように言うのが好きです。「彼は男らしく泣いた。」私の場合はそういう事にしていて、 それを変えるつもりはありません。それは愛です！ それは愛です！ あなたは気にしません… つまり…こんなふうを考えてみてください。家庭に持ち込んでみましょう。あなたの家族への愛のゆえに、 あなたは家族のために、 どれほど耐え忍べるのでしょうか？ 私たちは、自分の子ども達のためなら、他の人のためには絶対にしない事をします。冗談でしょう？ あなたの子ども達のために、 それをするつもりはありません。ありえませんが、自分の子ども達のため？ 問題ない。決まり！ 私の妻？ 問題ありません。あなたの？絶対あり得ません。愛する人のために、私が何を耐え忍ぶか。どんなことでもする。そしてそれは喜びです。パウロがいよいよ耐えていたとは、 想像しないで下さい。それは、彼が「さあ、かかってこい」と 言っていたというわけではありません。これは大変ですが、それだけの価値がある。クリスチャン人生について言えることがあります。それは簡単ではありません。しかし、それだけの価値があります。楽ではありませんが、 それだけの価値があります。私はこの最後の 1 つに 残りの時間を費やしたいと思います。私はこれに十分な時間を使いたかったのです。それは 「信頼すること」だからです。パウロがここで書いていることの重要性を誇張することが可能であるかどうか分かりません。彼は 11 節で、こう言って始めます。「次のことばは真実です。（信頼できることばです）」言い換えれば、「これは銀行に持って行くことができる。（信頼できる）」実際には、今現在はお勧めしません。今は、何も銀行に持って行かないでくださいね。しかし、言い換えれば、「これは真実です。」…私には新しい比喩が必要です。（銀行じゃなくて…）

まあ、礼拝が終わったら 誰かが助けてくれるかもしれません。その時には手遅れでしょうが。しかし、要点は分かると思います。「テモテよ。これに関して、私を信頼しなさい。」「これについて、私に信頼しなさい。」実は、この 11 節から 13 節までは、パウロが初代教会の讚美歌を引用していると信じられています。そしてそれは、その時代のクリスチャンに、 非常によく知られていた賛美歌でした。さて、皆さんは、ここでも、その文脈と 文化的ダイナミクスを理解する必要があります。その時代のクリスチャンにとって、それがどういうことであったかを。クリスチャンとしてのあなたの運命は殉教であり、あなたはそれを知っていました。そして、そのことは、ここにある聖句すべての様相を変えます。そのように理解していくと、これは、なんとなく納得できます。彼らはイエス・キリストへの信仰のために 殉教することを知っていました。人が自分の運命が殉教だと理解するとき、これらの言葉は、神の民の心と思い、力強いインパクトを与えます。私は先週、これについて考えていました。私たちは非常に不確実な…こんな風に言わせてください。もしあなたが私のような人間なら、 多分そうだろうと思いますが、「ああ、何が起こるの?」と。「大体において、もうすでに起こっているこれは何なのか?」今までにないほど、 主を信頼せねばならない時があるとすれば、 今がその時で

す。さらに一步踏み込みましょう。それには、私たちが恐らく今まで知らなかったような かたちで、神を信頼することが必要になります。それがあなたの背筋を凍らせるなら？ それは良いことかもしれませんが。主を恐れることは、知恵の始まりです。私はこれを見ていきたいのですが、 そうする上で、皆さんには、前述の殉教というレンズを通して、 これを見てほしいと思います。そうでなければ、これはただの、 聖書の紙面に書かれた 言葉のようにしか思えません。それには、本当に必要なインパクトがないでしょう。パウロは「これは信頼できることばです。」と言います。 あなたはこれを信頼することができます。「私たちがキリストとともに死んだのなら、…」私は死ぬのですか？ 一ええ。素敵な午後を過ごしてください。「私たちが、キリストとともに死んだのなら、 キリストとともに生きるようになる。…」それは信じる事ができます。それは信頼に値する言葉です。 主を信頼してください。「耐え忍んでいるなら、キリストとともに王となる。…」あなたはそれを信頼することができます。 それは信頼に値する言葉です。「(しかし) …」このような恐ろしい警告もあります。そして当時の初期の教会の状況を考えると 当然のことです。言い表せない迫害や殉教に直面して、主を否定する人々がいました。ここに恐ろしい警告があります。もし私たちが彼を拒絶して 彼を否んだり、否定したりするなら、 彼もまた、私たちが拒絶し、否み、否定します。私たちは、「主は決して私たちを見放さず、見捨てない」と、引用するのが大好きです。しかし、「私たちが彼を見捨てるならば、 彼は私たちを見捨てる。」という箇所も 引用すべきでしょう。良いですか、神は決して私たちにご自身を強制することはなさいません。さて、なぜパウロがこのように、否むことや 見捨てることについて書いたのかを理解するには、 13 節に書かれていることが理由になります。

### **[13 節] 「私たちが真実 (誠実) でなくても、 キリストは常に真実 (誠実) である。」**

そして、これが理由です。「彼にはご自身を否むことができないからである。」 お聞きください。私が神を否んだり、否定したりしても、 神はご自身を否定することはできません。それは不可能です。私が不誠実であっても、それが彼を不誠実にさせることはありません。もし私が不誠実であっても、彼は誠実であり続けます。彼のご性質には、何の影響もありません。それは彼がしないわけではなく、 出来ないのです。それは、彼がご自身を否定しようとしないう という ことではありません。彼はその性質ゆえに、ご自身を否定することができないのです。何があっても、彼は誠実であり続けます。彼は常に、誠実であり続けます。もし私たちが、その時代に生きていたら？ 私には、これを聞く必要があります。私たちはいつも、次のように心の中で思ったり、考えたりします。声に出して言うこともあるかもしれませんが。もし私とその立場に置かれたら…初代教会のクリスチャンたちのように。私はポリュカルポスについて考えます。教会の歴史家は彼についてこう言っています。彼は牧師でした。 たしか、スミルナにいたと思います。それは (黙示録の) 手紙の一つにある教会で… 現代のトルコにあります。それは現代の都市イズミルです。 当時はスミルナと呼ばれていました。彼はスミルナの教会の牧師でした。彼はこの杭に縛り付けられ、 生きてまま焼かれることになっていました。しかし、彼らは彼にイエス・キリストを否定し、放棄する機会を与えました。教会の歴史家が書いているものによると、彼は 85 歳くらいでした。なので、これを想像してみてください。彼は縛られています。 彼が生きてまま焼かれる準備ができていて、彼らはこう言います。「最後にチャンスを与える。牧師よ、あなたはどうするのか？」 「あなたがイエスを拒絶しない限り、 私たちはあなたを生きてまま燃やす。」ポリュカルポスの答えが何だったかご存じですか？ 「彼は 85 年間、私にずっと誠実だった。」 「私は彼を否定しない。火をつけなさい。」 「ところで、私を燃やすこの火は、あなたが地獄で

焼かれる火とは比べ物にならない。」うわ～、すごい説教ですね。お～、牧師先生！ さて、繰り返しますが、私は自分自身を例に使います。なぜなら、… 分かりますよね。聖霊にそれをしていただきましょう。どのみち、彼の方が、私よりもはるかに良い働きをしてくださいますから。なので今、私は自分自身にこう問わねばなりません。「もしそれが私だったら？」牧師さん、どうするつもりですか？ 「私は死にたくない…！」はい、しかし、『あなたがキリストとともに死ぬならば、あなたはキリストとともに生きるのです。』「ええ、でも…！これは本当につらいです…！ 私には耐えることができるかどうか分かりません！」 いえいえ、違います！『あなたが耐え忍ぶのなら、キリストとともに王となる。』リストを追っていてもいいです。しかし、彼を否定しないでください。「燃えて、ベイビー、燃えつくして」「ああ、主よ、迅速にしてください。」教会の歴史家は、彼は生きたまま焼かれながら、ただ神を賛美していたと言います。叫ぶのではなく、神を賛美していた。私なら赤ん坊のように叫んでいるでしょう。男らしく泣き、赤ん坊のように叫ぶでしょう。しかし、彼は主を賛美していました。主を讃えていました。私が言いたいのは、次の事です。私たちが神の誠実さを疑ったり疑問に思ったりする 主な理由の一つは何だと思いかと 私が尋ねられたら、それは、私たちが人間をもっと恐れているから と答えざるを得ないでしょう。同じことを別の表現で言わせてください。私たちは、神ができることよりも、人間ができることをもっと恐れています。マタイ 10 章 28 節。先週、この箇所が思い浮かび続けました。ちょうど今朝、来て教える準備をしながら、私はこれを含めることに決めました。 **マタイ 10 章 28 節** イエスが仰っていることを聞いてください。

**「からだを殺しても、たましいを殺せない者たちを恐れてはいけません。むしろ、たましいもからだもゲヘナ（地獄）で滅ぼすことができる方を恐れなさい。」**

箴言に、「人を恐れると罾にかかる。」と書いてあります。（29 章 25 節参照）

**ヘブル人への手紙 13 章 6 節**、ヘブルの著者はこう言っています。

**「ですから、私たちは確信をもって言います。『主は私の助け手。私は恐れない。人が私に何ができるだろうか。』」**

「私は主に信頼する。何でもやりたいようにしなさい。彼は常に誠実である。私はあなたを恐れない。私は誠実な方を恐れる。私は彼を信頼している。私は彼に期待している。」オズワルド・チェンバースからの引用で 閉じたいと思います。オズワルド・チェンバースは A. W. トーザーのような男の一人です。私にはこの愛憎半ばする関係があります。彼らとはなく彼らの本と。トーザーやチェンバースを読むと、「主をほめたたえます！」となるのではなく、「私はまだ救われているのか？」となります。ああ！それは本当に罪を示されます。それは、「ノー！ああ…！」という感じです。まあ、これもそのうちの一つなので、皆さんに任せたいと思います。「同病相哀れむ」ですから。罪の示しも同じですよ？ それから、私はあなたを愛しているからです。愛していますよ。

**「愛する者が傷つけるのは、誠実による。」（箴言 27:6 参照）**

これは私に A. W. トーザーの引用を思い出させました。彼はこう言います。「神は、その人を深く傷つけるまでは、人を大きく用いることはできないだろう。」私はそれは聞きたくありません。私は神に私を大いに用いて欲しい。できません。なお、それについては、ヤコブに尋ねてください。ヤコブは、「私を祝福してください、主よ。」と、彼は主と一晩中格闘したのです「あなたが私を祝福するまで、私はあなたを去らせない！」主は、「いいでしょう。私はあなたを祝福したい。私はあなたを大いに使いたい、私はあなたを深く傷つけなければならない。なぜなら、祝福は、砕かれる前には

決して与えられないから。なので、チェンバースの言うことに 耳を傾けてください。私はそれがすべてを要約していると思います。「あなたが神を恐れるとき、あなたは他に何も恐れぬ。あなたが神を恐れぬなら、他のあらゆるものを恐れる。」そうですね？ 主への恐れ。私は旧約聖書の中の、当時のイスラエル人のことを考えます。彼らの目には主への恐れはなく、すべての人が自分の目に喜ばしいこと、正しいと思えることをしていたと言います。主への恐れがない。ところで、主に対する恐れの話をするとき、それは確かに、畏敬の念のことです。聖なる恐れ。しかし、こんな風に見てください。これは、非常に私の助けになりました。きっと、それはあなたにも助けになるでしょう。こんな感じですか。あなたは主を恐れるあまり、主を悲しませるようなことをするのを恐れ、主を不快にさせるようなことをするのを恐れます。神の心を打ち砕くようなことは何でも恐れるのです。それは悪を憎むということです。あなたは神が憎むことを、憎むのです。ダビデは…神の心に沿った心を持っていたと言われています。どういう意味かご存じですか？ 私たちの子供たちのように、「おお、彼はあなたに似てるね、」それが問題であることは分かっています。彼のために祈ってください。かわいそうに。かわいそうな子。「彼女は母親に似てる。」似ているところがありますね。言い換えれば、ダビデは御父に似た心を持っていた。神を愛する心、神のような心、そして、神の心を悲しませる物事に悲しむ心。あなたは神をとて愛するあまり、何か、神を悲しませたり、神を不快にさせるような事をするのを恐れるのです。お立ちください。祈りましょう。

私は今日、ただあなたを励ましたいのです。繰り返しますが、あなたが直面している試練や 困難を軽視するつもりはありませんが、関係ないんです。しかし、私は証言できます。もし私が、真実を語り、真実のみを言うために宣誓して、証言台に立たされるとしたら。だから、主よ、お助け下さい。これが真実です。神は常に誠実であり続ける。神は誠実です。神はあなたに乗り越えさせて下さる。神はあなたを乗り越えさせます。あなたは、主のいつくしみ深さを見ます。主の慈しみ深さについて、あなたに疑問を持たせることを敵に許してはいけません。あなたは見るでしょう。あなたは見ます。神は良い方であると。祈りましょう。主よ、ありがとうございます。ああ、主よ、私は最善を尽くしました。ここからは聖霊にお任せします。私たちの中に、あなたの御言葉を私たちの生活に 適用したくない人はいないと思います。私たちの人生の中で、これが実現して欲しくない 人は誰一人いないと思います。主よ、私たちの中で、思い出させてもらう 必要のある者のために、ただ単純に、あなたの誠実さを思い出させてください。あなたがいつも、不可能に見えたことを 乗り越えさせて下さったことを、思い出させて下さいしかし、主よ、あなたは不可能の神です。主よ、疲れて落ち込んでいる人、失望している人の心を励まし、力づけてくださるよう祈ります。イエスの御名によって。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7